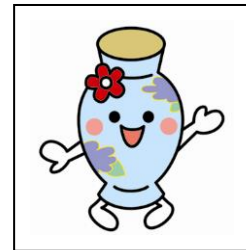


自らの実践を振り返り、書きながら考え、

新たな教育実践を創り出すために

教育研究論文の書き方



目 次

- 1 教育研究論文をなぜ書くのか
- 2 教育研究論文の構成
- 3 目次
- 4 はじめに
- 5 研究課題（研究テーマ）を決定する
- 6 研究仮説を立てる
- 7 研究方法を考える
- 8 実践を行い、考察する
- 9 研究のまとめを行う
- 10 おわりに



1 教育研究論文（以下教育論文と略する）をなぜ書くのか

（1）書くことは考えること

教育論文を書くことを通して、自分の実践を冷静に見直し、「もっと別の手だてはなかったのか」「この実践のどのような点を継続していくとよいのか」など自分の実践を振り返る場としていきたい。パソコンの画面に向き合い、原稿を作成していくことで、今までの自分の実践と静かに対話をしてほしい。

（2）自分の足跡を残すこと

「教育とは流水に文字を書くような果てしない業である」（森 信三）と言われる。自分の授業の足跡を残すことで、自分の仕事を確実に刻んでほしい。子どもたちを深く理解するためのものであってほしい。また、教育科学としては、後の人間が教育論文を読んで「やってみよう。やれる」ものでなければならない。

（3）志をもつこと

「研究のための研究」や教師の自己満足のために、教育論文があるならば、現場の教師は書く必要がない。目の前の子どもたちの幸せを願い、それに寄与することができると思っていて、研究を進めなければならない。教師が名利や出世の手段として、教育論文を書くことは厳に慎まねばならない。この「志」こそが α であり Ω である。

（4）自分の仕事に自信をもつこと

自分が取り組んできた研究を多くの人に理解してもらうことを通して、教師自身が授業や児童生徒理解、様々な指導に自信をもつことができる。やればできるという自尊感情を高めることができる。

2 教育論文の構成

（1）教育論文の基本的な形式

【序論（起）→本論（承・転）→結論（結）】

簡単な報告書 研究の目標（仮説も含む）→研究の概要（実践）→研究の結論

ア 仮説（理論）検証的教育論文の研究の進め方

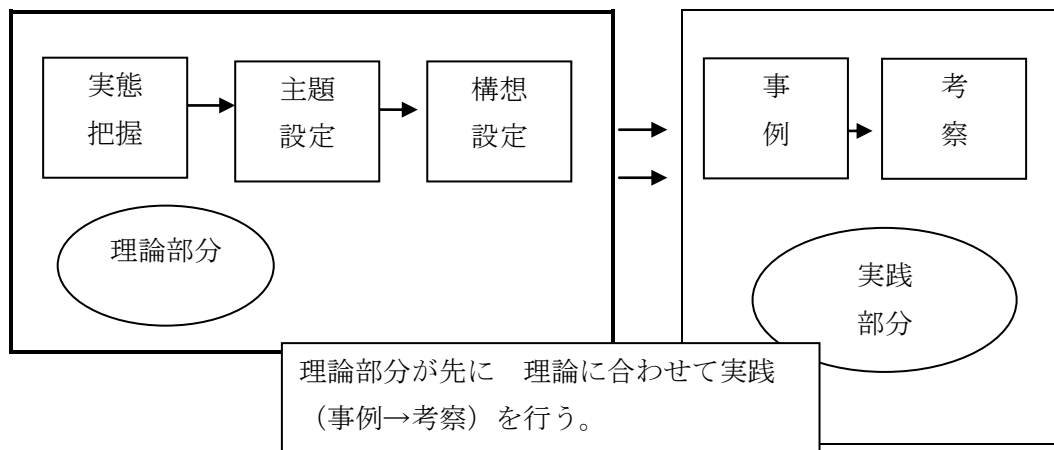


図1 検証的教育研究の進め方

イ 実践積み上げ型教育論文の研究の進め方

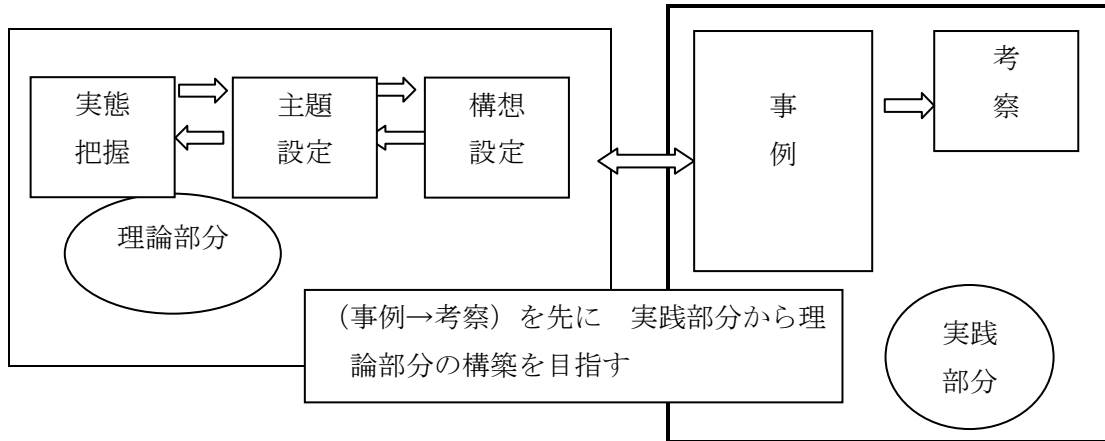


図2 実践積み上げ型の研究の進め方

- ア 研究主題（研究テーマ）
- イ 研究主題（研究テーマ）設定の理由 或いは 研究の目標
- ウ 研究仮説（研究の見通し、実践の見通し）
- エ 研究計画・研究方法の概要（研究の手だて、実践の工夫と展開）
- オ 研究の実際と考察（実践と検証、実践記録、授業記録とその分析、追試可能か）
- カ 研究の成果と今後の課題
- キ 参考文献・資料

(2) 教育論文割付目安

ア 研究主題（研究テーマ）、研究主題設定の理由、研究の目標	10%
イ 研究仮説（研究の見通し、実践の見通し）	10%
ウ 研究計画・研究方法の概要（研究の手だて、実践の工夫と展開）	
エ 研究の実際と考察（実践と検証、実践記録、授業記録とその分析）	70%
オ 研究の成果と今後の課題、資料、参考文献	10%

(3) 教育論文を書くときの注意5ヶ条

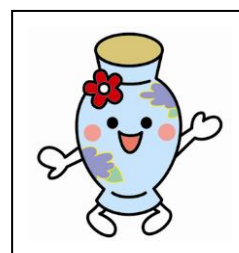
- ア 教育論文はエッセーでも随筆でもない。自分の論を展開する説明文である。
- イ 教育論文は一人よがりの文章ではなく、自分の考えを人に伝える文章である。
- ウ 教育論文は読書感想文ではなく、参考書籍はあくまで論を展開する材料である。
- エ 教育論文は芸術作品ではない。感情に流されすぎない。自分の思いや発想を先行させすぎない。
- オ 教育論文は先行研究のまとめや情報を貼り付けただけのものではない。

3 目次

表題 研究主題 (研究テーマ・サブテーマ)

- 1 はじめに
- 2 研究主題 (研究テーマ) 設定の理由 或いは 研究の目標
- 3 研究仮説 (研究の見通し、実践の見通し) と研究計画・研究方法の概要 (研究の手だて、実践の工夫と展開)
- 4 研究の実際と考察 (実践と検証、実践記録、授業記録とその分析、追試可能か)
- 5 研究の成果と今後の課題
- 6 参考文献・資料

裏面 研究同人・研究メンバー



4 はじめに

- (1) 社会的背景や児童生徒の実態を述べたい。
- (2) 「目指す子ども像」など学校の全体目標などを研究領域・研究内容と絡めて具体的に書くとよい。
- (3) 研究主題を決定した動機やその研究主題を選択した児童生徒の実態について書く。

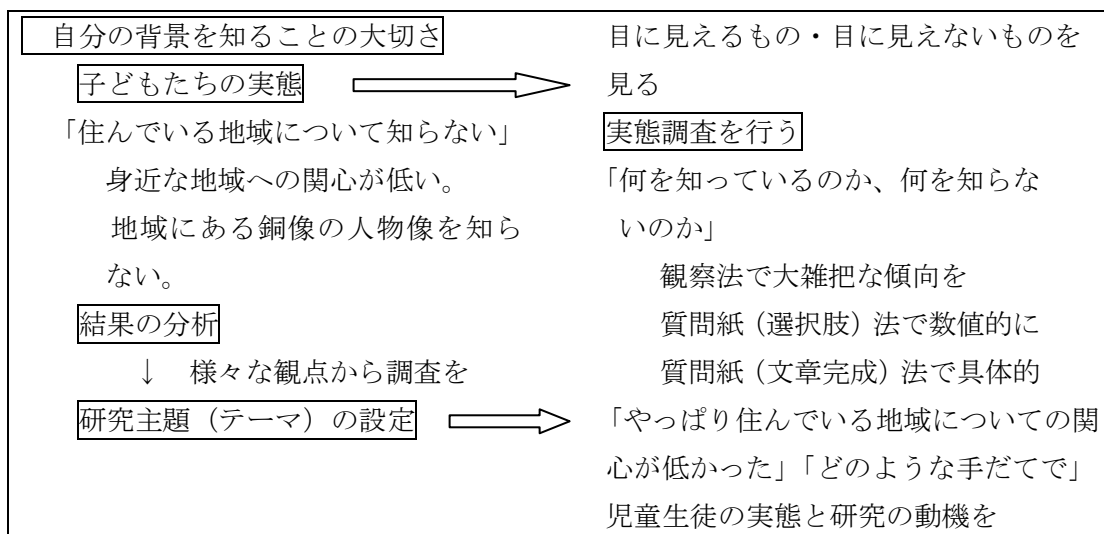


図3 「はじめに」の部分の書き方

5 研究課題 (研究テーマ) を決定する

- (1) 問題意識をもつ
 - ①うまかったこと
 - ②うまくなかったこと
 - ③話題性のあること
 - ④子どもたちへの願い
 - (2) 実態調査 アンケート (傾向を知るには2択より4択が望ましい)
- テーマ 『国際感覚あふれる、心豊かな人間の育成』 【研究の日標】を
 サブテーマ 『留学生との国際交流活動』 (総合的な学習) の実践を通して一
 【研究の対象 研究の手だて】を

6 研究仮説を立てる

研究仮説を立てる

①仮説のねらい 「きっと〇〇となるだろう」
(手だてと見通しがあるか)

②仮説を検証するため必要なもの

「〇〇ができたならば仮説は正しかった」

□において	〇〇を●●することで	△△となるだろう	研究仮説の 作り方
教科・領域	問題把握・手だての工夫	ねらい・目標	
場・内容	改善点・独自性	目指す子ども像	
研究対象	研究のポイント		
研究領域			

7 研究方法を考える

「いつ」 【検証場面】 単元のどの場面・単元全体・年間指導計画など

「どこで」 【検証場面】 授業場面・活動場面・カルテ・座席表

「何を」 【データ】 教材・指導方法の工夫・手だて

「なぜ」 【研究の必要性】 研究検証の必要性

「どうなった」 VTR・ボイスレコーダー・挙手・授業記録・板書記録
ホートフォリオ評価

- 研究仮説の手だて (例) 個の読書を支える読書活動の工夫
全校一斉の「朝の読書」があるから読むのではなく、生徒一人ひとりが主体的に読書することができるように「ブックウォーク」と「ブックトーク」とを取り入れる。
- 抽出児童(生徒) (例) 事前アンケートや観察から、読書の習慣がなく、読書意欲も低い。「目指す生徒像」に近づいてほしい生徒。
- 手だてと検証の計画 (★は検証 ※は継続実施)

	仮説Ⅰ	仮説Ⅱ	仮説Ⅲ
4月	『朝の読書』スタート		
5月	★「読書調査」 ★「朝の読書」感想調査		学校図書館司書来校
6月		ブックウォーク開始 ブックトーク開始	

※ 教育論文のワンポイントアドバイス①の1

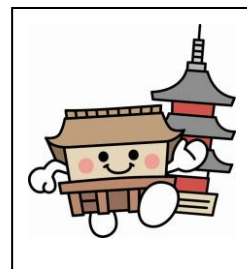
- ① 児童の実態から主題を設けられているものが多く良かった。
- ② 目指す子どもの姿(願い)を明確に示すとよい。
- ③ 研究の構想図等、内容が一日で分かるようなものがあるとよい。
- ④ 研究課題や研究仮説で独自性が出るとよい。論点を絞ってよいので、「この論文で言いたいこと」をはつきりさせてほしい。

※ 教育論文のワンポイントアドバイス ①の2

- ⑤ 学年、内容が一日で分かる主題・サブテーマになるよう工夫したい。
- ⑥ 論文ではなく、教育実践報告にとどまっているものがあつた。
- ⑦ 授業分析の方法は多岐にわたるが、授業中の変容の検証方法について、工夫が欲しい。
- ⑧ 論文全体のバランスを考え、多くをねらわず焦点化されたものがよい。
- ⑨ 研究内容に独創性（オリジナリティー・研究の売り）があるとなお良い。
- ⑨ 現状から研究課題が決定し、その研究課題を克服するための方法論が研究仮説となる。その研究仮説を十分に検証できる手だてが検証の方法となる。この流れを意識する。

8 実践を行い、研究内容を考察する

- 単元・活動・教材・題材の設定 単元が決まったら、学習指導要領・指導書・教科書・参考文献の確認を
- 教材分析 学習活動と教材の中に含まれている要素の分析
- 実態調査
- 単元全体の学習活動一覧表の作成
- 授業実践と授業分析
- 教育実践の分析
- 学習活動の展開と評価（ポートフォリオ評価）



- ①調査とは、仮説を裏付けるための「客観的な統計などの数値や事実、具体例」を示す。
- ②実践を基にして「原理・原則、法則性、一般的な傾向、常識などの理由付け」を示す。
- ③研究内容の考察を進めるには、
授業（実践）のどこで 「実践活動の・単元の・1時間の授業の・・・」
どんな手だてで 「方法・教具・資料・機器などの具体的な方法で」
予想される反応 児童生徒の反応 「このような意見や感想ができれば・・・」

※ 教育論文のワンポイントアドバイス ②の1

- ① 児童・生徒の実態や興味関心にあつた実践がよい。
- ② 研究方法(手だて)を明確にして実践内容をまとめるとよい。
- ③ 主題に関わることに焦点をしばり、それを中心に述べるようにしたい。
- ④ 図表や実践の記録を上手に取り入れ、分かりやすいものがあつた。
- ⑤ 具体的な抽出児童(生徒)の変容を示したリグラフ化したりすると、説得力が増す。
- ⑥ 研究を検証するための抽出児童(生徒)だから、どの階層の児童生徒を何人ぐらい抽出するのか、きちんと検討があるとよい。
- ⑦ 着目したい部分には波線・色線等で強調するとよい。ただし、多すぎると読みにくい文章となるので気を付けること。
- ⑧ アンケート等事前・事後の比較ができるようにする。(数量化でき、さらにその数値が統計的に有意であると一層よい)

※ 教育論文のワンポイントアドバイス ②の2

- ⑨ 本文中の図や表は最小限で代表的なものにとどめる。
- ⑩ 研究課題を意識しながら研究仮説の立証に向けて、ポイントを絞って短い文でまとめていく。事実を中心に表記し、不要な推測的表現は避ける。

9 研究のまとめを行う

- 事前調査と事後調査との比較
 - 抽出児童・生徒の蓄積型作品集のポートフォリオ評価
 - 授業（教育）実践の記録から、子どもたちの姿を読み取る
 - 子どもの学習のまとめ（作品・感想文等）による目標及び研究仮説の分析
 - 発表物（ポスター）の分析、発表方法の分析、発表態度の分析
- ➡ 研究仮説をもとに実践を見直し、検証する

※ 教育論文のワンポイントアドバイス ③

- ① 資料(図・表・写真)には必ず番号とキャプションをつけ、本文中でコメントをつける。
- ② プリントや構想図等を資料として添付する場合、文字が明確に判読できるとよい。
- ③ 実践の裏付けとして、抽出児童(生徒)の変容を数値化できると分かりやすく、説得力がある。(筆者の主観にならないように気をつけたい)
- ④ 資料は必要なものを精選して欲しい。数値データや児童生徒の記述のコピー等客観的な資料を掲載すること。
- ⑤ 「仮説の検証」とは別に、抽出児童生徒の変容について資料を添えてまとめ、全体の成果として分析するとよい。研究の成果と課題を明記する。課題については、具体的な追究方法が書かれているとよい。
- ⑥ 研究の成果については、研究仮説・研究方法をふまえ、箇条書きで結果をまとめる。
- ⑦ ネガティブ・データについては、その原因を追究しながら、今後の課題として押さえておく。
- ⑧ 児童生徒の向上的成長を願う教師の強い思いを交えながら論述する。

10 おわりに

● 個人情報の取扱いについて

個人（特に児童生徒）に関する情報を記載する場合には、特定の個人が明らかに識別されないよう、また識別される可能性がないよう留意する。

児童生徒の作品（例えば、作文・絵画・デザイン・写真・音楽・レポートなど）は「著作物」である点に気をつける。

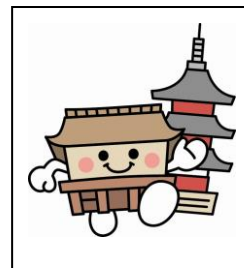
● 推敲

- 事実として書いてあることには客観性があるか。
- 意見（考え）として書いてあることが、誰の意見かはっきりと分かるか。
- 文の並び方は論理的な流れに乗っているか。
- 独り合点で説明を省き、読み手を惑わせることはないか。
- 今までの先行研究の結果・資料・データとの比較検討がしっかりとされているか。
- 統計的な処理に誤りはないか。
- 章・節は明確かつ適当な数であり、長さであるか。
- 章・節のネーミングは適切で、付してある番号は系統的か。
- 用いられている図や表は適切かつ必要性のあるものか。



● 悪文の条件

- 主語と述語がねじれている。
- 事実と意見が混在している。
- 修飾語が長すぎる。
- 言葉の選択に誤りが見られる。
- 文全体のバランスが悪い。
- 句点・読点の打ち方が不明瞭。
- 無意識的に長文となっている。
- 誤字・脱字が目立つ。



※ 教育論文のワンポイントアドバイス ④

- ① 今後の課題には、仮説や手だてに対しての評価をカロエ、具体的な次へのステップが示されるとよい。
- ② 文章は主語述語をはっきりさせたい。長い文章は避け、主語が変わるときは文を切るようにすると良い。「短く」「わかりやすく」が原則。
- ③ 仮説の検証や有効性がはっきりしないのに、成果を論者の主観のみからとらえて、効果があつたとする論文が多いように思う。客観的な裏付け。説得力がほしい。
- ④ 仮説を論証していくためのアンケート調査等の裏付けがなく、児童生徒の主観的な姿で成果を導いているものが多くあり、説得力に欠ける。
- ⑤ 論文の成果をどのように活用していくか、次が見える結びにしたい。
- ⑥ 資料等がカラーで添付されたり、書体や下線等の工夫がされたりして見やすくなっている。ただし、肝心なのは本文であることを忘れないでほしい。
- ⑦ 原稿用紙の左のマスを空けているものが数点あった。効率よく紙面を利用したい。
- ⑧ できるだけ、多くの方に読んでいただき、校正をしてから提出したい。
- ⑨ 先行の研究論文。実践報告に目を通してほしい。（県論文・総合教育センターも利用）